

なみき通信



令和6年度 桜並木学園つくば市立並木小学校 学校だより9 9月17日号

非認知能力を育てるために…

「読み聞かせ・読書」のすすめ

非認知能力とは、知識や学力以外のスキルや特性を指しています。具体的には、自己管理(計画性や時間管理)、感情調整(ストレス等のコントロール)、社会的スキル(協力やコントロール等)、問題解決能力などが含まれます。つくば市では非認知能力育成に力を入れており、本校でも、様々な体験を通して、子どもたちに非認知能力育成を目指しています。

非認知能力を育てるためには、自己管理と目標設定、問題解決能力の向上、読書と物語の活用などが重要であると言われています。本校で研究テーマとしている「探究的な学び(→問題解決能力育成)」や読書活動のほか、ボランティアの皆さまが行ってくださる「読み聞かせ」も重要です。

「読み聞かせ」や読書は、物語に感情移入することを通じて、子どもはさまざまな状況や視点を理解し、感情の共感的理解、問題解決のスキル、自己管理能力などを自然に学ぶことができます。例えば、登場人物の行動や感情を追体験することで、困難にぶつかったときにどう乗り越えていくか、友達とトラブルになったときにどう解決していくかなど、物語にそった1つの解決方法を学ぶことができ、さらに自分とは違う視点もあるということに気付くこともできます。だからこそ、本校では「読み聞かせ」の時間、さらには読書活動を大切にしたいと考えています。

子どもたちの将来の幸せのために、これからも非認知能力を育てる教育活動を行っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

校長 大村 千博



科学研究作品展 つくば市展「学校賞」受賞！

つくば市科学研究作品展が9月14日・15日に開催されました。作品は、身のまわりの素朴な疑問を調べようとしたものがたいへん多く、素晴らしい内容でした。

並木小からつくば市展に出展した作品は、科学研究作品12点、発明工夫2点でした。金賞5作品(17名:5年生4作品16名・6年生1作品1名)、銀賞3作品(3名:2年生2作品2名・6年生1作品1名)、他は佳作でした。おめでとうございます！つくば市内の小学校で金賞等の数が多かったということで、つくば市科学研究作品展学校賞も受賞しました。本校は、探究的な学びに力を入れているため、探究活動の王道である科学研究(自由研究)で学校賞をいただくことができ、大変喜んでおります。

金賞の5作品は、県南地区展に出品されます。県南地区展もつくば市展と同じ会場(市民ホールつくばね)で9月28日・29日に開催されます。県南地区の各市の金賞の作品が展示されます。お時間があれば、ぜひご来場ください。(写真は校内展示 つくば市展のようすは本校HPに掲載中)



サイエンスキッズリーグ 5年生3名が二次リーグへ！

サイエンスキッズリーグ2024の一次予選が8月3日に市役所で行われ、5年生3名チームが二次へコマを進めました！他校の通過選手はほぼ6年生の中、大変素晴らしいです。10月12日に二次予選が学園の森義務教

育学校で行われます。応援しています。

「非認知能力」に関する校長の独り言

自分の子育てや中高一貫校(県立と私立)に20年近く勤めた経験から、子どもの非認知能力について強く感じていることがあります。それは、認知能力(テストで数値化できるもの、IQ等)が小学校の頃、高くても、非認知能力を小学校時代にしっかりと育てなければ、せっかくの高い認知能力が大学受験やその後の進路に結びつかないことがあるということです。認知能力が高い子どもは受験前に短期集中で、ある程度のつじつまを合わせる(受験で必要とする知識の習得など)ことはできますが、本人や保護者は「もっとうちの子はできるはずなのに」と満足しない傾向がありました。逆に、非認知能力の高い子どもは、継続して頑張り抜き、周りがびっくりするような、本人や保護者が大いに納得のできる結果をおさめる傾向がありました。

子どもの将来の幸せのためにも、夢に突き進もうとする力をつけるためにも、非認知能力を小学校時代に育てることはとても大切であると思っています。

ではどうしたらよいのか…。

少し大変なことでも、嫌だと言っていたとしても、つらいとへこたれそうになる子どもの心に寄り添い、保護者や周りにいる人が応援して、心をしっかり支えて、頑張ることにチャレンジさせることが必要だと感じています(決して、無理強いではなく)。そして、そのチャレンジがうまくいかないとしても、失敗を次への成功につながるエネルギーをつくり出すあたたかい声掛けや心の安定を与えること(ギュッと抱きしめる等)が大切であると思います。周りが先回りをして、意図的に失敗しないようにしてしまうと、非認知能力は育ちません。育てるためにも「失敗してもいいよ！失敗しても、次、頑張ればいいんだよ。大丈夫だよ！」と周りがどんと構えられたらと思っています。



シドニーから鈴木前校長先生の月の授業を受けました

9月5日、12日に現在、シドニー日本人国際学校で働いていらっしゃる鈴木はるみ前校長先生の理科の授業を6年生全体でうけました。南半球のオーストラリア シドニー日本人学校の中学生と並木小6年生の合同授業です。テーマは「月」です。

オーストラリアの夕方の三日月の写真から、日本の夕方の三日月の形と見え方が違うことに気づかせ、子どもたちは「はて？」「どうして？」と思う



ことから、授業が始まりました。南半球にあるシドニーと北半球にある並木小ですから、地球・太陽・月の位置を立体的に考えれば、分かることですが、子どもたちは夕方西の空に見える日本と逆の欠け方をしている月に、びっくりしていました。また、鈴木前校長先生に会えたことが、6年生にとってとてもうれしく、授業を大変楽しんでいました。

南半球にあるオーストラリアとつないでのスケールの大きな理科授業となりました。(左の写真に、はるみ前校長先生がうつっております。お元気そうです。)



9月後半の主な予定

- 17日(火) 1学期期末短縮日課
- 18日(水) 1学期期末短縮日課・SC柳田先生来校
- 20日(金) 2年校外学習
- 23日(月) 秋分の日
- 26日(木) 1-1 居住地交流
- 27日(金) SC柳田先生来校
- 28日・29日 科学研究作品県南展一般公開 市民ホールつくばね

